

交響詩
花鳥風月

― 俳句と随想 ―

山内 嵩

深き愛と
寛き心もて
慈しみ育て給い
戦に出で立つ時
ただ一人涙し給いし
亡き母に捧ぐ

目次

第一楽章	四季	一
第二楽章	旅	二七
第三楽章	芭蕉	六三
第四楽章	佗・寂	七七
第五楽章	花と星	八五

挿絵・天利重子

第一樂章 四季

―春―

鶯の初音はつねにそつと

耳澄ます

鶯の笹啼ささなきうれし

浅き春

梅一輪青空たかく

鳶の舞う

節分に梅一花ひとはなの

香りがぐ

藪椿ひっそりと咲く

山の春



独り旅山の椿と

語らいぬ

椿咲く峠の道の

春しづか

肥後椿元禄の代に

生れしと

元禄の殿様愛でし

椿買う

山寺の庭のしじまに

椿散る

満開の桜に生きる

よるしづか



しみじみともの思うかな

花吹雪

去年こぞの花めでつ語りし

友いずこ

古寺の庭にゆかしき

ぼたんかな

山寺の庭にかそけき

水の音

藤の花咲くや飛びくる

熊蜂くまんばち

歳めぐり熊蜂つどう

藤の房

